

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-88679

(P2006-88679A)

(43) 公開日 平成18年4月6日(2006.4.6)

(51) Int. Cl.		F I		テーマコード (参考)
B 4 3 K	23/08	(2006.01)	B 4 3 K 9/00	Z
B 4 3 L	19/00	(2006.01)	B 4 3 L 19/00	G

審査請求 未請求 請求項の数 5 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2004-307434 (P2004-307434) (22) 出願日 平成16年9月22日 (2004. 9. 22)	(71) 出願人 504132870 篠原 伸明 栃木県下都賀郡壬生町大字藤井7 2 5番地 2 (72) 発明者 篠原 伸明 栃木県下都賀郡壬生町大字藤井7 2 5番地 2
---	---

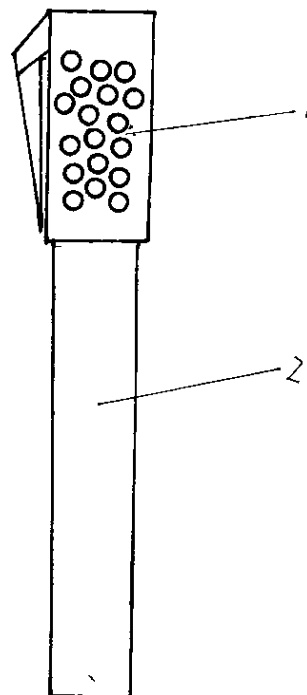
(54) 【発明の名称】 ペンのふたや、その他のふたを、とりやすくしたもの。

(57) 【要約】

【課題】 従来のペンなどや、その他のもののふたは、ふたがペンなどにきっちりとつき、とりにくくなっていた。

【解決手段】 ふたやふたなどに、手や指の力がはいりやすくするために、ふたなどに、凹凸をつけたり、その他のものや、その他のすべりどめのやくわりのあるものや、手や指の力がはいりやすくしたものや、ゴム製などのすべりどめをつけるようにして、ふたをとりやすくした。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

さまざまな、おおきさや、形などの、水性や油性などや、その他のものなどの、ボールペンについて、ボールペンのふたに、さまざまな、おおきさや、形の、ざらざらしたようなものや、おうとつや、凹凸のようなものや、その他のものを、つけたりや、ゴム製や、その他のものによって、ふたに、すべりどめのためや、などのために、つけるようにして、ボールペンのふたを、とりやすくしたりや、又、つけやすくしたもの。又、方法としても、利用できるようにした。

【請求項 2】

さまざまな、おおきさや、形などの、水性や油性などや、その他のものなどの、ペンのふたについて、ペンのふたに、さまざまな、おおきさや、形の、ざらざらしたようなものや、おうとつや、凹凸のようなものや、その他のものを、つけたりや、ゴム製や、その他のものによって、ふたに、すべりどめのためや、などのためにつけるようにして、ペンのふたを、とりやすくしたりや、又、つけやすくしたもの。又、方法としても、利用できるようにした。

【請求項 3】

さまざまな、おおきさや、形などの、水性や油性などの、その他のものなどの、さまざまな、目的や用途などにより、利用される、マジックペンや筆ペンやふたのついた、シャープペンシルなど、さまざまな、目的や用途などに、利用される、ペンやにたようなもののふたに、さまざまな、おおきさや、形や、ざらざらしたようなものや、おうとつや、凹凸のようなものや、その他のものを、つけたりや、ゴム製や、その他のものによって、ふたに、すべりどめのためや、などのためにつけるようにして、ペンのふたを、とりやすくしたりや、又、つけやすくしたもの。又、方法としても、利用できるようにした。

【請求項 4】

鉛筆やその他に、利用される、鉛筆であれば、芯などを、保護するために、使用される、ふたやその他の目的や用途に使用される、ふたについても、さまざまな、おおきさや、形や、ざらざらしたようなものや、おうとつや、凹凸のようなものや、その他のものを、つけたり、ゴム製や、その他のものによって、ふたに、すべりどめのためや、などのためにつけるようにして、上記のふたを、とりやすくしたりや、又、つけやすくしたもの。又、方法としても、利用できるようにした。つけたりや、

【請求項 5】

さまざまに、利用される、文房具などについて、ペンなどや、ペンのような、形をした、修正液用のペンなど、さまざまに、利用されるものや、家庭用や商業用や工業用などやその他に利用され、使用などされている、産業用に利用される、ふたのついたものについてなどや、その他の目的や用途に利用される、ふたについても、さまざまな、おおきさや、形や、ざらざらしたようなものや、おうとつや、凹凸のようなものや、その他のものを、つけたり、ゴム製や、その他のものによって、ふたに、すべりどめのためや、などのためにつけるようにして、ふたを、とりやすくしたり、又、つけやすくしたもの。又、方法としても、利用できるようにした。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、さまざまな、おおきさや、形などの、ペンやその他のものの、ふたについて、に関する。

【背景技術】

【0002】

従来の、ペンのふたは、ふたをねじってつまみあげるものだけが利用され、とりやすくするため、すべて、縦の線のような、表面にもりあがり、うきでたようなものや、デザインとして、横の線のように、表面にもりあがりうきでたものや、すじのように、へこんだものや、縦の線のように、すじのようにへこんだものやもりあがりうきでたものがあつた

が、手軽に上の方へ指でひっぱり、手軽にふたが、とれるようなものきは、つくり、利用等がされてこなかった。

【0003】

以下、図3図4により、従来のペンのふたやそのようなものなどを、せつめいする。

【0004】

【特許文献1】

【非特許文献】

【発明の開示】

【発明が解決しようとしている課題】

10

【0005】

以上に述べた、従来のペンなどのふたは、ねじって取るように、縦の線のようなものしかつけられてこなかったり、とくべつにつけられていなかった。しかし、現代のペンなどのふたは、インクの乾燥を防ぐためなどにより、また、技術の進歩にともない、気密性がたかいものとなっており、ふたのついた、ボールペンなどは、とりづらいものとなってきていたり、なっている。

【0006】

本発明は、このような、従来の構成が有していた問題を解決しようとしたものであり、ペンなどの、ふたに、表面にざらざらとした、おうとつのあるまるいような感覚のものなどや、表面にゴム製などのすべることをしにくくするものなどにより、表面につけることなどにより、すべりどめのついたふたの、ものを、実現することを、目的とするものです。

20

【課題を解決するための手段】

【0007】

そして、本発明は、上記目的を達成するために、ペンなどや、その他のもののふたに、表面などに、ざらざらとした、おうとつのある、まるいものや、線のようなかんじの形になった、もので、表面にうきでたものや、みぞのようにへこましたようなものや、表面にゴム製のものをつけて、すべりにくくしたものなどをつけて、新しい、すべりにくくして、とりやすく、つけやすい、ふたをつくり、利用できるようにする。又、凹凸やざらざらしたものや、その他のすべりどめのためや、力がはいりやすくななどの、ための、凹凸やなどや、ゴム製などの、すべりどめや、力がはいりやすくしたものなどのものは、さまざまな、おおきさや、形や色などにできるようにした。

30

【発明の効果】

【0008】

上述のように、本発明のペンなどや、その他のふたについて、従来のボールペンなどの、ふたが、とりやすくなり、又、つけやすくなり、使用しやすいものが、新しくつくり、利用されるようになる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

本発明は、ペンなどや、その他のものの、ふたについて、従来のボールペンなどのふたに、すべりどめのようなものがつくようになり、つかいがあってのいいものとなり、したがって、従来より、使用されている、ふたと同じように、利用や使用ができるようにする。

40

【産業上の利用可能性】

【0010】

上述したように、本発明のふたは、新しい感覚のふたのものが、利用され使用されることにより、使ううえで、使用されることになり、従来のボールペンなどが、より利用や使用などがしやすくなり、社会生活などに大きくやくだつものとなった。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】 本発明の平面図

50

【図 2】 本発明の平面図

【図 3】 従来の図

【図 4】 従来の図

【符号の説明】

【0013】

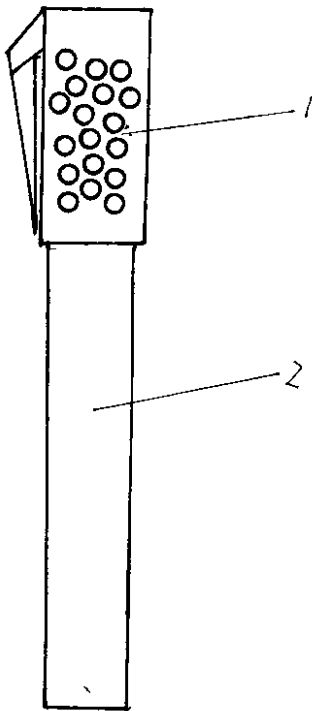
1 発明したものがついたふた

2 ボールペン

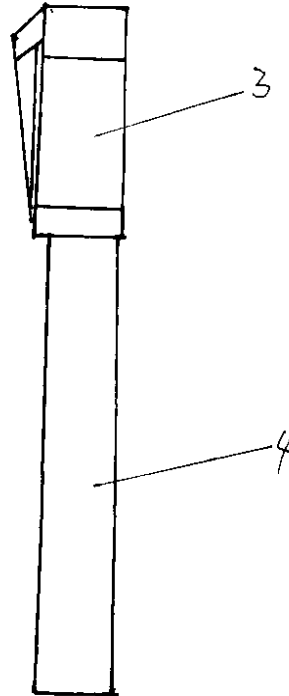
3 発明したものがついたふた

4 ボールペン

【図 1】



【図 2】



【手続補正書】

【提出日】平成16年11月16日(2004.11.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

【図1】 本発明の平面図

【図2】 本発明の平面図